

意見交換会実施報告書

開催日時	平成28年11月1日(火) 午後6時30分～午後8時00分
開催場所	平公民館 学習室
出席議員	二條 孝夫 (責任者、報告者) 佐藤 浩樹 (記録者、受付等) 太田 昭司 (記録者、受付等) 大和 幸久 (司会者)
参加者数	18人
報告内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度決算の概要及び事務事業評価について ・第5次総合計画について
内容 (要望提 言等)	<p>自治会について</p> <p>○発言1 自治会加入率が少ない上に加入者が減少している。なんとか打開する方法はないか。このままだと自治会が崩壊してしまう。</p> <p>★回答1 自治会の加入率は大町市全体で76%。平地区は68.7%。大町市の各地区で同じ問題を抱えている。市の定住促進のホームページでも、自治会加入を呼びかけている。議会としても何か手を打たないといけないと考えている。</p> <p>○発言2 条例を制定することにより自治会加入を義務付けることはできないか。</p> <p>★回答2 基本的には自治会は自治であるため、できる限り条例制定は避けるべき。全国には自治会加入促進に成功している事例もあるため、議会としても調査・研究していきたい。</p> <p>○発言3 自治会加入のメリットとデメリットが市民にはわかりにくい。大町市内でも自主防災組織ができているのは7割ほど。自主防災会と自治会の組織の一体化を図ることでメリットを増やすことも大事ではないか。</p> <p>★回答3 防災としての自治会は大事である。意見として承る。</p> <p>○発言4 小さな自治会でも多額の投資をしているため、自治会費はある程度の負担をしていただかないと、自治会の存続は難しい。今後は各自治会に対する補助を、さらに増やしていただけないか。市で検討してほしい。</p> <p>★回答4 行政へ伝える。</p>

○発言 5

税収が減っていく中で、行政と自治会がどのように「協働」していくべきか。第5次総合計画の中でも、「協働」を明文化し、自治会の必要性を訴えていけば、自治会に対する理解も深まり加入者も増えるのではないか。

★回答 5

第5次総合計画の中でも協働をうたっているが、自治会が協働の核になっていくべきであるというご意見はその通りである。議会としてもしっかりと行政に提言をしていきたい。

○発言 6

10年程前、大町市に移住した時に、自治会の共有地の権利の問題により自治会に入れてくれなかった。その時に、他の自治会の会則を知りたいと思ったが、その時には他の自治会の会則は見せてくれなかった。閲覧できるようにしてほしい。

★回答 6

行政へ伝える。

○発言 7

役員のなり手がいないことが問題である。高齢者には役員の負担は大きすぎる。結局、それが自治会を抜ける原因になっている。また役員の交代による引き継ぎも問題である。

自治会費は都会から来た人にとっては高すぎる。また自治会としての活動が、雪下ろし、道路の清掃、街灯の管理など多い。個人的には都会からこの過疎のまちに来てくれた人から自治会費をとることは反対であるが、地元の人には通用しない。自治会に入らないと広報も来ない。

ぜひ、自治会に問題の全てを任せるのではなく、市と自治会の話し合いの場を設けてほしい。

★回答 7

自治会によって、財産があるところとないところもあれば、会費もまちまち。そんな中で、行政と自治会の情報共有の場がほしいという意見である。市には市民サポートセンターがあるため、相談するのも一つである。

○発言 8

自治会の運営には何かと経費が掛かるが、少ない予算の中でなんとかやりくりしている状態である。

★回答 8

自治会のあり方を考え直す時期に来ている。自治会だけではなく、行政や議会も同じ問題意識を共有しあって、問題を先送りせず努力していきたい。

第5次総合計画について

○発言 9

第5次総合計画の中で「選択と集中」ということが言われている。平地区は切り捨てられるという印象を持っている。今後は、公共インフラが維持管理できなくなり、平地区の住民は、中心部へ移らなければならないこ

とを危惧している。

★回答 9

貴重な意見である。人口減少、高齢化の社会の中、10年後の大町市は具体的にどのような環境になるのかが重要である。

○発言 10

どの地区が人口減少しているのか。

★回答 10（参加した市職員による主な回答）

常盤地区の人口は横ばいで、平地区も横ばい。美麻、八坂地区の高齢化率は減っているが、人口は急減している。特に大町地区は減少率が大きい。今後の大町市の人口推計では、平成32年から高齢者の人口が減っていくとともに、若い人も減っていくと推計している。

○発言 11

人口は日本全体で減っていく。市外から人を呼び込み定住させることは難しい。いかに今住んでいる市民を大事にして、これからも大町市に住んでもらうことが重要である。

★回答 11（各議員の主な回答内容）

・日本の人口減少は避けられない。人口減少自体は悪くはない。大町市の3万人弱ぐらいの人口だと急激な人口減少には耐えられない。子育て支援などは他の自治体も同様の支援を実施している。今後は、若者に大町市を選んでもらうための魅力あるまちづくりが大事である。

・先日、舞鶴市に視察に行った。舞鶴市は、市の中心部に投資し、人が集まる施策を行っている。また交通網の整備を行い、関西や東北へ短時間で移動できる。大町市も決して魅力がないところではない。どうやって魅力を発信していくかが大事である。

・舞鶴市は、今住んでいる人を守る政策を取っている。選択と集中を徹底し、中心市街地に人を集めている。その上で、大町市は定住対策も死に物狂いで行わないとならない。また私たちの価値観を変え、Iターンの人たちを受け入れる心構えも必要である。

・地域にお金が回る仕組みを作る必要がある。現状ではお金は東京へ集中してしまう。地方でも働ける場を作っていく。また市の職員が、意識的に市の商店街で買い物し、商店の経営者がお金を使って市内で買い物をすることでお金が回っていく。この意識を共有することが大事である。

国際芸術祭について

○発言 12

国際芸術祭の市の負担金について、聞くところによると文化庁からの補助金が削られたと聞いている。今後、市の負担金が増えないようにしてほしい。

★回答 12

行政へ伝える。

ごみ焼却施設について

○発言 13

焼却灰については、大町市が全て受け入れている。白馬村、小谷村のゴ

ミも今後は大町市の焼却施設で受け入れることになるが、さらに焼却灰までも大町市が受け入れなければいけないのか。白馬村や小谷村も灰を受け入れるべきではないのか。

★回答 1 3

広域連合の事業なので市町村間の公平性を保つためにも、各自治体で焼却灰を処分するべきであるというのも理解できる。しかし、これは広域議会でも承認されている。白馬村や小谷村も大町市の水準に合わせてしっかりと分別しゴミを出すよう努力すべきと考える。

コミュニティスクールについて

○発言 1 4

コミュニティスクールが始まり、学校が地域の核となっていけたらいいと思う。来年には市内のすべての小・中学校がコミュニティスクールとなる。ぜひ議会としてもできる限り応援していただきたい。

★回答 1 4

ご意見として承る。

一般質問について

○発言 1 5

同じ内容の質問を何人もしているが、重複しないように会派同士で調整することはできないか。また、議会で質問するまでもないと思われる質問もある。さらに、議会で議決した議案等に対し、議員が足を引っ張っていることもあるが、そのような行為はやるべきではない。

★回答 1 5

ご意見として承る。

口利きについて

○発言 1 6

行政に対しての口利きが問題になっている。大町市は公開しているか。していなければ公開してほしい。

★回答 1 6

基本的にはこれは市長の姿勢に関する事。議会としてはそれをチェックする。

政務活動費、議員歳費について

○発言 1 7

政務活動費は少なければいいというものではない。議員の活動が制限されてしまうのもおかしい。

★回答 1 7

基本的に議員の歳費は少なすぎると思う。議員になる人が限られてしまい、特に若い人のなり手が少ない。歳費だけで生活できる保証がないと議員活動がしっかりできないからである。

市議会だよりについて

○発言 1 8

広報おおまちと市議会だよりの表紙の写真が似ている写真が多い。うま

	<p>く広報おおまちと調整してほしい。</p> <p>★回答18</p> <p>議会だより編集委員会へ伝える。</p>
その他 特記事項	